

令和4年度

学校関係者評価書(後期)

南アルプス市立芦安中学校

# 芦安小中学校 学校関係者評価書(後期)

令和5年1月19日(木)

芦安中学区学校運営協議会作成

## 第2回芦安地区学校関係者評価委員会(第3回芦安中学区学校運営協議会)

実施日:令和5年1月19日(木)

会場:南アルプス市立芦安小学校 多目的室

### 〈芦安中学区学校運営協議会委員〉

会長 名取 昭彦(元芦安小学校・校長 南アルプス市教育委員)  
副会長 和田 真実(芦安小中学校PTA会長)  
委員 有野 敏也(南アルプス市みんなで支える芦安協議会代表)  
委員 伊東 隆雅(芦安地区保護司)  
委員 金川 健太(芦安小中学校PTA副会長)  
委員 倉園 光代(主任児童委員)  
委員 清水 准一(NPO法人芦安ファンクラブ会長)  
委員 清水 実(芦安子を守る会会長)  
委員 塚原 利幸(芦安窓口サービスセンター長)  
委員 名取 大介(学校応援団コーディネーター)  
委員 森本 章雄(芦安地区学校応援団代表)

### 〈学校職員〉

小学校 古屋 雅章(芦安小校長)  
河野 太郎(芦安小教頭)  
中学校 小林 雅人(芦安中校長 芦安地区学校運営協議会委員)  
深澤 和博(芦安中教頭)

### 〈助言者〉

南アルプス市教育委員会 笹本 忠彦(学校教育課課長)  
横小路 亮(学校教育課指導監)  
清水 洋孝(学校教育課指導主事)

## 1. 学校側から提案された内容

- ① 学校評価の方法について
- ② 評価の全体的な傾向について
- ③ 教職員自己評価・児童生徒アンケート・保護者アンケートの結果について
- ④ 今後の学校経営・学校運営について

## 2. 検討していただいた主な内容

- ① 各項目の評価・達成状況・改善策について
- ② 学校生活(携帯電話の使用・マスク着用等)について
- ③ 芦安小中転入学について
- ④ 芦安地区の教育のあり方について

## 3. 学校への意見・要望・感想等<小中>

### 【学校経営・学校運営】

- ・アンケートから高評価の項目が多かったり、前期より改善されている項目が多かったりしている様子が読み取れます。取組の成果が表れていると思います。
- ・児童生徒の減少が喫緊の課題だと思います。特に中学校においては、少人数のよさを最大限に生かしつつも、少人数ゆえの課題にも取り組んでいかなければならないと思います。特色ある芦安小中学校の教育とともに学力向上にも取り組み、芦安に行ったら授業が楽しい、授業が分かるようになった、できるようになったという声が広がるようになればいいなと思います。
- ・コロナの過剰対策を辞めた方がよいと思います。やりたい方は引き続き感染対策を、そうでない人はやらない。お互いがお互いを認め合う、自分とは違う価値や考えの人がいる等こういったことを学べる機会にできたらと思います。人間は沢山の菌に守られているので、それをあえてアルコール消毒で死滅させる必要はありません。この騒ぎ後、子どもの不登校・自殺が増加。南アルプス市内でも騒ぎ後の不登校になったという子がいます。過剰対策は子どもを苦しめます。夏の猛暑の登下校でもつけたまま汗だくで顔が真っ赤の子もいたのは大変に問題だと考えます。

### 【学習指導】

- ・アンケートから小中ともに宿題(家庭学習)に課題があると思います。保護者の中には、宿題は害とか悪とか考えている方もいるようですが、家庭学習の大切さを折りに触れ訴えていくことが大切と考えます。
- ・現在の基礎学力の為に全員へ同じ内容の宿題を出すのではなく子どもの能力や環境に合わせた宿題を出す事を提案したいと思います。昔と今では家庭環境が大きく違います。今では夫婦共働き、核家族が主流となり、宿題を家で親と一緒に意欲的に取り組む事は時間の都合上かなり難しくなっています。また習い事も学習系、スポーツ系、音楽系、と様々あり、これも大事な学びの一つと捉えていただきたいと思います。宿題は無くていいと考える家庭もあります。(子どもが自らやる遊びは全て学びになると考える)ただ同時に現状の宿題が好きな子から宿題を奪う事にならない様にもしたいです。少人数で授業が行える芦安小中学校では、宿題については大きく見直す事が可能ではないでしょうか。少人数で学校の授業が遅れてしまい、宿題が必要だという事であれば、先生方の指導方法の見直しも必要かもしれません。

### 【生徒指導】

- ・小中一貫教育は中学生のリーダー性や自己有用感の醸成に有効と思いますので、行事のねらいや方法を検討して取り組んでほしいと思います。
- ・子どもが自分も他者も大切にできるようになるには、子どもの権利を守らねばならない。幸せで健康な心身を持った子どもは、自らたくさん事を学び自分や他者を大切にする立派な人間に育ちます。細かい服装の指導で、お互い嫌な思いをすることが、権利を守ることではありません。国連が出している「子どもの権利条約」について、先生と児童・生徒と一緒に学んだらどうでしょうか。できれば親も一緒に三者の勉強会または講習会などができればいいと思います。
- ・校則は生徒が決める方がよいと思います。「靴下は白」というような、子どもたちは誰が決めたかも分からない決まりやルールの中で精一杯生きていますが、そのような民主的でない規則は再考する必要があります。上下下達ではない、民主的でフラットな組織づくりとそれに伴うディベートは、社会に出てからも必要なスキルです。この際、その勉強の場とするのはどうでしょうか。

### 【保護者・地域との連携】

- ・今年度はコロナ対策を行いながら、運動会や白峰祭等の行事に地域と連携して取り組んだことはすばらしいと思います。今後も、無理のない範囲で行っていただきたいと思います。

### 【学校の特色ある取組】

- ・自然体験活動、太鼓、英会話活動等、これまでの成果を生かし継続的に取り組んでいただきたいと思います。
- ・芦安小中学校でしか経験ができないイベントや行事、教育等、今後も衰退しないよう継続して取り組んでもらいたいです。

### 【その他】

- ・芦安地区は平成15年の合併以降、人口が約220人と半数以下の状況です。これからも人口世帯等の増加は見込まれないことから、より一層の特色ある取組を先生方だけに押し付けずに地域全体として考えていく必要があると思います。
- ・コロナ禍であるが、先生方の生徒へのご指導、ご協力の結果が学校運営・経営に出ている。今後もよろしく。
- ・芦安小中学校は特別に小さな学校なので、学年に一人しかいない場合もある。そういう子であっても学校になじめるように、敬称や、敬語を上学年に使うよう指導する必要はありません。敬語を使うのは、経験を通して身につけていけばよいと思います。
- ・主体は子どもなので、価値観を押し付けすぎないことが大事だと思います。大人の価値観を押し付けるのではなく、子どもたちで相談して決めるのが望ましいと考えます。時には分裂して

対立することも学び。そうなった場合は、先生が意見をまとめるなどサポートし、少しずつ子ども達が主体となれるような環境を与えて欲しいと思います。

- ・マスクの着用に関して、京都大学大学院教育学研究科教授である明和政子著「マスク社会が危ない」という本があります。子どもの発達にマスクがどう影響しているのかが書かれています。マスクにはデメリットの情報も沢山あります。教育に関わる先生達には是非御一読いただきたいと思います。少人数の芦安小中学校では、2mの物理的距離を取り、マスクを外して授業を行う事が可能です。マスクをしたい子もしたくない子も、どちらも共存できる学校を目指して欲しいと思います。またウィルス感染の視点、発達の視点、等、色々な視点、情報にプラスして子ども達の考えや気持ち、健康面も考慮していただきたいです。マスクを外すのが恥ずかしいという子もいます。本来子どもを守る為だった感染防止対策が、今では子ども達を苦しめ、更には発達への悪影響が心配されています。マスクが本当に子どもたちに必要なものなのか、子ども達を守るためにも、是非色々な情報を先生方自ら取りに行き精査し冷静な対策をしていただきたいと考えます。

#### 4. 分析・評価

- 前期・後期の学校評価から得られた結果を今後の改善に生かせるように、1つ1つの項目について児童・生徒の実態を踏まえた具体的な手立てを講じながら学校運営の改善に取り組むとともに、学校教育目標の実現に向けてさらに芦安郷育を推し進めていきたい。
- 中学校では生徒数が少なく、子どもたち同士の間関係づくりに不安を抱いている生徒・保護者がいることを踏まえ、子どもたちとのコミュニケーションや日々の微妙な変化の見取りをより一層大切にしながら、きめ細かい対応をしていきたい。
- 授業改善については、「使うことが目的」とはならないICT機器等の活用、適切なめあてと振り返り場面の設定等を行い、児童生徒が自分の学びの成果や課題を把握しながら学習を進めることができる指導・支援に取り組んでいきたい。ICT機器の活用と並行して、情報モラル教育の学習も充実させていきたい。
- 家庭学習の改善・充実については、睡眠時間や食事の時間、ゲーム機やSNS等の使用時間も含め、家庭での生活時間の使い方全般を見直す。そして、タブレット端末や読書等を活用した自主的な学習に家庭と連携して取り組み、「主体的な学び」を目指していきたい。
- 基本的な生活習慣の定着を含めて適切なコロナ感染対策を行いつつ、自然体験活動や小中合同活動、PTA活動や地域との連携活動等の、芦安小中学校の特色ある取組を、今後、さらに工夫しながら活動の幅をより一層広げていきたい。その際、「前例主義」に陥らず、児童生徒の実態に応じて活動の見直し・改善を進めていきたい。
- 「マスク着用」については、生徒等に一律には「着用する」「外す」を強制せず、生徒等の思いを大切にしながら、生徒自らが判断できるように、適切な学習環境を整え、適切な指導をしていきたい。